

アーキペラゴゼミ

豊島編

島からまなぶ「自律する」こと

Archipelago seminar

Teshima Island

Learn about the autonomy

アーキペラゴゼミ 豊島編

Archipelago seminar at Teshima

豊島産廃問題とは

豊島事件は摘発当時（1990 年）50 万トンに及ぶ廃棄物が豊島に持ち込まれた日本最大規模の不法投棄事件といわれる。

1975 年に 1 人の事業者によって始まった豊島の一部海岸への不法投棄。1990 年兵庫県警による事業者の摘発。

そして残された廃棄物の責任と撤去をめぐる香川県を相手に公害調停の申請を行った 1993 年。

2000 年香川県知事の謝罪とともに公害調停の成立を迎え、ようやく廃棄物の処理がスタートした。一応の決着までに 25 年という長い月日に渡った豊島産廃問題。2000 年の調停成立時には廃棄物のすべての処理にはまだ時間がかかるとされていた。（2011 年処理対象量が想定より 20 万～23 万 7 千トン大幅に増え処理終了が当初の計画期間（24 年度末）より 3 年 6 カ月延びて 28 年 9 月になる見込みとなった。）

ゼミ内容

講師に廃棄物対策豊島住民会議元議長の砂川さんを招き、島に住む方の視点から考える豊島の産廃問題。

砂川さんたちの話を聞いたときに思うのは、事業者、県との闘いであったように見える産廃問題は最終的には自分たちとの闘いであったんだろう、ということ。

砂川さんはじめ豊島問題に関わった人の話を通し私達が学ぶことは

「人が自律する。」とはどういうことなのか。

自ら考え、決断し、行動をする事とはどういうことなのか。

このことに尽きると思う。

だからこそ私達は砂川さんたちの言葉に心を動かされるのだ。

豊島の人たちが、命をかけて守ろうとしたものは何なのかを知る。だったら、自分が守りたい大切なものは何なのかを考える。

きっと、熱くなるものを、心に持って帰ってもらえる 1 日 — それは私達自身の未来へつながる 1 日 — となることでしょう。

》》 豊島ゼミ日程 毎月第4日曜日実施

》》 豊島ゼミ講師

10:20	豊島（家浦港）高速艇乗降場 集合 砂川さんナビゲートによる豊島事件現場視察
12:30 14:00	泉屋にて昼食（豊島の食材を使った豊島中華）
昼食後	自由時間 (甲生地区の散歩、泉屋でワイン、お昼寝、読書、首なし地藏お参り etc)
15:00	家浦港 解散

◆ご確認ください。

アーキペラゴゼミの集合解散場所は豊島の家浦港になります。
スタッフが、家浦港の高速艇を降船されたところでお待ちしております。
お気をつけておこしください。

豊島では2012年春より民泊が始まりました。

前日から豊島にきて宿泊、夜の豊島を満喫してから、豊島ゼミに参加して頂いたり、豊島ゼミ後にレンタカーを借りて島を一周するなど様々な日程の組み合わせができます。

豊島民泊のお問い合わせ

→豊島 webHP <http://www.teshima-web.jp/minpaku/list.html>

※豊島民泊は現在、web 予約のみの受付となります。

》》 豊島ゼミ参加費用

産廃施設視察代（ガイド・資料代）	2,000 円
昼食代	1,000 円
合計	3,000 円



砂川 三男 さん

廃棄物対策豊島住民会議
元議長
豊島生まれ

1975年の豊島産業廃棄物不法投棄事件勃発時より島民の先頭に立って長年行政の厚い壁と戦い抜き、最終合意に導いた長老の一人。島民の声を県政に伝えるために「無謀だ」といわれた県議選に、命がけで石井とおる氏を擁立した勝手連の首謀メンバーでもある。

最終合意が得られた後、住民は県と町の主導で資料館を建設しようとした。

この際に、長年ともに闘った中坊広平氏から「行政依存の安易な考えで資料館を造る事は人間廃棄物として世にさらけ出す事だ。学びの島として再生する事は至極の技だ。人の心を揺り動かせるだけの情熱がなければできず、出来たとしても誰も来ない島になろう。」と叱咤を受けた。そのとき、「自分は死ぬまで、産廃の歴史を伝えていこう」と決心したという。「世の人に大変な支援を受けた。その人たちのためにも伝え続けていかんと思います」その想いから「枕から頭が離れている間はみんなの役に立ちたい」と83歳になった今でも産産廃見学ツアーのガイドを引き受けて下さっている。

》》 豊島産廃問題について書かれた書籍

『未来の森』 石井とおる / 著

『豊島産業廃棄物不法投棄事件』 大川 真郎（豊島事件弁護団副団長） / 著

『中坊公平・私の事件簿』 中坊 公平 / 著

『ゴミが降る島—香川・豊島産廃との「20年戦争」』 曾根英二 / 著

水に恵まれた島

Teshima is blessed with water

豊島は地質的な構造上、また壇山に広がるシイなどの広葉樹林の森（スダジイの森）による腐葉土も手伝って、多くの水を地下に保っています。この豊かな水は豊島の棚田、そして最盛期には300〜400あったとされるため池のある風景を作りだしています。温暖で雨量の少ない瀬戸内海の有人離島の中でも、米を自給して余り、移出するほどの生産力を持っていた島は唯一豊島だけだと言われることから、豊島の水の豊かさそして自然の豊かさを伺うことができます。

唐櫃地区にある清水とよばれる水場は四季を通じてこんこんと水が湧き出しています。豊島で初めに集落が形成されたのもこの唐櫃地区。この清水と関わりがあったのでしょう。今もこんこんとわき出る清水は、豊島が豊かさを失っていないことを物語っています。



》 豊島と片山邸・泉屋 昼食を召し上がって頂く甲生地区、片山邸について



大正五（一九一六）年。銅製錬所の適地を探していた三菱合資会社はまず豊島村に白羽の矢を立てる。豊島は湧（わ）き水に恵まれ、大量の水を使う製錬事業にうってつけの島だった。三菱の思惑はしかし、大地主の片山家から門前払いされる。

「ややこしいものが来たら困るって、先々代の当主が断ったと聞いています」と片山松子さん。元町職員の植原美信さんは「農家がみな反対したらしい」と話す。「排煙で山がはげたら、湧き水が枯れる。稲が作れんのではかなわんと」。文書が残っていないため意思決定の経緯は定かでないが、反対の主因が煙害にあったのは間違いない。豊島をあきらめた三菱は候補地を直島に転換、島の意向を打診した。（これが現在の三菱マテリアルです。）

四国新聞 島びと 20 世紀より

幕末から明治にかけて西日本屈指の木材商として栄えた片山家のお屋敷です。（更にさかのぼると元保の乱で崇徳上皇方が敗北して讃岐に流された際、お供についてきた武士の 1 人が甲生の片山氏の先祖であったと片山家の系譜は語っている。）屋号にもなっている「泉屋」とはどんなに干ばつのひどい年であっても、片山邸の井戸が決して枯れる事なくこんこんとわき続けた事に由来があります。

》 豊島ゼミのお昼ごはん 半径 500m の贅沢。



豊島ゼミでみなさまに召し上がって頂いているご飯は、ほぼ片山邸の半径 500m 内で作られたお野菜やお素麺など。お米も豊島でとれたものです。前日や当日にご近所の畑から収穫されたお野菜たち。

豊かな島の所以ともなっている、豊かな自然に育まれた食べ物たち。

ぜひ一度味わってみて下さい！！

》 片山邸周辺（裏面の map に記載）

首なし地蔵

いつの頃からか「頭がよくなる」また、「頭の病気が直る」お蔭のある地蔵といわれ、願いごとなどがかなえられると、お礼に頭を作り、以前に奉じた頭と取替えて奉納するようになった。初めて見るとお地蔵様の首だけが山積みされていてぎょっとするが、その頭の数だけ願いが叶っているということ。

ドンドロ浜

江戸時代に九州の材木を切り出し、京阪神へ運ぶために、片山氏はここに製材所を作り製材した。また、ドンドロ浜には、両墓制が行われていた豊島の「埋め墓」の名残と思われる墓地があり、小豆島と同様にキリシタンが多かった名残である隠れキリシタンの墓群がその中にある。

塩田千春さんのアートワーク

「遠い記憶」

時間＝10:30-16:30

開館＝土・日（3 月 20 日-10 月）

料金＝一般 300 円、15 歳以下無料

集落の旧公民館を利用した作品。

（2012 年 2 月現在。）



豊島 MAP



豊島アクセス

高速艇・フェリーにて

高松⇄豊島（家浦港） 豊島フェリーにて片道 30～60 分
小豆島土庄⇄豊島（家浦・唐櫃） 小豆島フェリーにて 1 日 7 便
宇野⇄豊島（家浦・唐櫃） 小豆島フェリーにて 1 日 7 便

海上タクシーにて

高松港～豊島 片道 ￥10,000 – 12,000（約 30 分ほど）
※船会社によって価格・定員数が異なります。ご確認ください。

お問い合わせ・お申し込み先

NPO 法人アーキペラゴ

tel :087-811-7707 (10:00-19:00)

fax :087-813-1002

mail:info@archipelago.or.jp

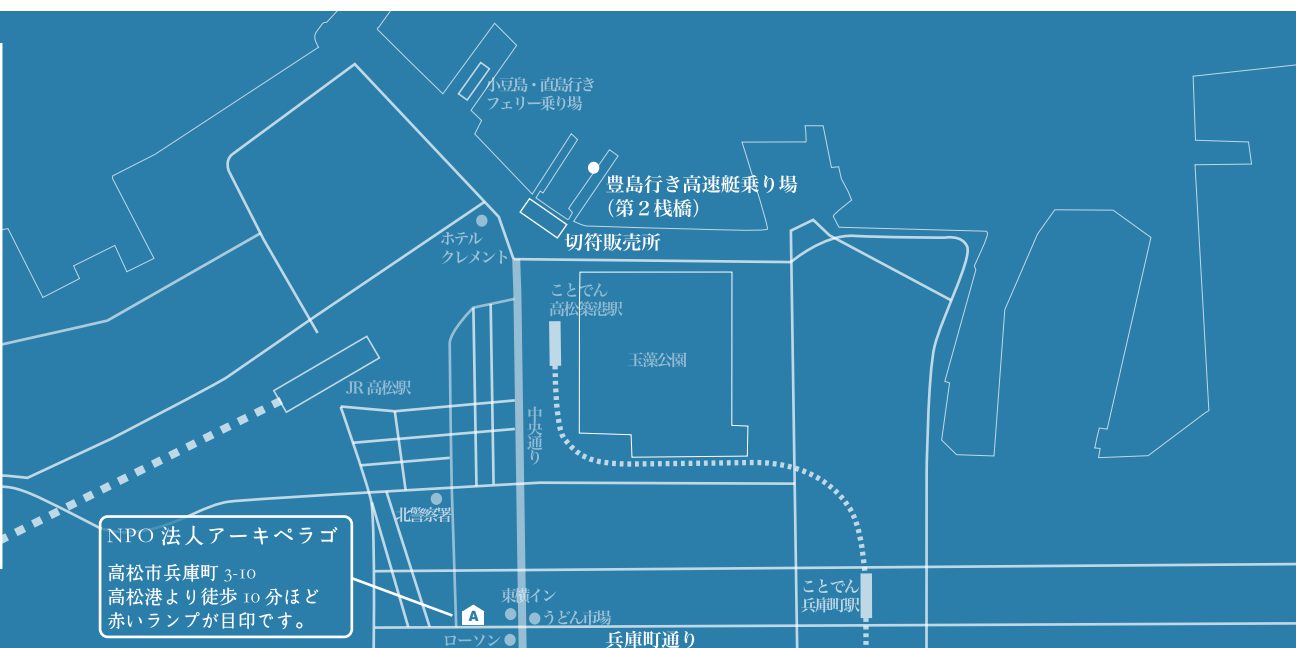
豊島ゼミ緊急連絡先（栗生 | 090・4336・3104）

【プロジェクトメンバー】

栗生みどり プロジェクトリーダー・アーキペラゴ理事
堀尾明代 プロジェクトサポート・アーキペラゴ理事
細川 学 ゼミ料理担当・アーキペラゴ理事
北川拓未 ゼミパンフ製作・ウェブ告知担当・アーキペラゴスタッフ

NPO 法人アーキペラゴ

高松市兵庫町 3-10
高松港より徒歩 10 分ほど
赤いランプが目印です。



NPO法人アーキペラゴとは？

NPO法人アーキペラゴは、香川県高松市に本拠を置く非営利活動法人です。アーキペラゴとは、多島海・群島を意味します。日本列島、四国の北側に広がる瀬戸内海は、いくつもの島々が海路でつながり、それぞれの多様な文化や生活が今も息づくアーキペラゴの世界。ここに暮らす人々の様々な思いや島それぞれの歴史に触れたとき、私たちはこの多島海に世界の縮図を感じました。この海で、未来の豊かさへと続く希望が見つけ出せたなら、きっとそれは世界が抱える様々な課題にも応用出来るに違いない。そんな確信を抱きながら、私たちは島へ渡ります。

理事長 三井文博